



みらい麦畑化計画

横浜市立大学 木原生物学研究所



食料・環境・健康を育む豊かな暮らしを実現するため、木原生物学研究所で学ぶ大学生が、一粒の麦から植と食をつなぎ心に緑の種子をまく未来開発学生研究プロジェクト「みらい麦畑化計画」を展開しています。自然と物質の“二つの循環を調和”させた、グローバルな社会ネットワークの実現を考え、学びと研究成果を地域に役立てることでSDGsへの貢献を目指しています。



明日の社会を担う大学生が『自分史上の初めてに挑戦する』をテーマに、地球に優しく地域社会との繋がりを発信する活動です。地図も教科書もない新しい未来を切り拓く自分探しの旅への挑戦です。

学びを実践に

地元のみなさんと交流を通じてワークショップや麦作りの農作業イベントを企画しながら人と人のつながり環境と暮らしのつながりを考え私たちの学びを社会に生かす取り組みを実践しています。



都市農業や生物の多様性を学びながら、舞岡の里山で栽培したビール大麦やパン小麦を使い、持続可能な食料生産について学んでいます。麦わらをストローや暮らしのアイテムまで余すことなく活かして、海洋プラスチック問題にも目を向け、陸や海の豊かさそこをつなぐ街の豊かさを考えています。

医食同源、農益万民

舞岡の圃場で、農を通して「つくる、つかう、つながる」を実践。畑を耕し、種子を播き、麦踏みして麦を育て、収穫したビール麦から、自分たちのクラフトビールも作っています。



未来と世界を拓く次の世代に学びの場と大学の魅力を発信しアカデミアの役割を実践して社会に貢献したい....

2019年の主な活動実績

- 2月 麦ふみ大会（積雪のため中止）
- 4月 アースデイ東京2019 麦わらストロー出展
- 4月 戸塚ゆっくり堂 ローカリゼーションカフェ 参加
- 5月 麦畑ようこそ！イベント（立毛検討会）、子ども大学よこはま「麦畑ワークショップ」、収穫イベント（麦刈り大会）
- 6月 夏至キャンドルナイト2019（ナマケモノ倶楽部）参加
- 7月 うみ博2019「麦わらストローで明日の海を考える」出展
- 8月 研究所一日施設公開、「ひまわり迷路大作戦」一面のひまわり栽培
- 11月 ビールKORN MUTTER（コルンムッター）販売



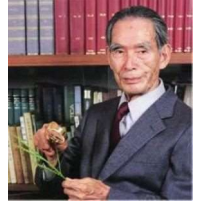
みらい麦畑化計画

横浜市立大学 木原生物学研究所 植物遺伝資源科学研究室内
戸塚区舞岡町 641-12 Tel. 045-820-2404





横浜市立大学の舞岡キャンパスにある木原生物学研究所は、コムギ博士として知られる木原 均（1893-1986）が創設した研究所です。生物の多様性と進化から地球環境の変化と人類発展の歴史を学び取り、子供たちに未来を託すために、医食同源に通じてSDGs達成に貢献する植物科学・食料科学の教育と研究を進めています。



木原 均 博士

地球の歴史は地層に、生物の歴史は染色体に記されてある

地球上には多種多様な生物が生態系の調和を保ちながら共存しています。それは、生命の歴史30億年以上の時間をかけて、大きな環境変化にも適応して進化してきました。染色体（ゲノム）に記録された生物の歴史を研究し、世界の持続可能な食料生産のために、環境変動に適応するコムギや遺伝子の研究をしています。



持続的食料生産と発展のために
人をつくり、社会を作り、国を造る

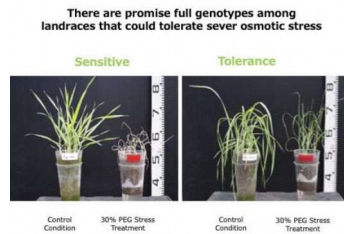
G x E x M x M x P

Genotype
Environment
Management
Market
Policy

遺伝子型・品種改良
栽培環境・適地適作
栽培管理方法・資材
市場経済・販売戦略
政策・経営戦略

半世紀を超えたコムギの里帰りプロジェクト

木原均博士らは1955年に、コムギの祖先を探る研究でアフガニスタン地域を探検しました。内戦で全てなくしたアフガニスタンに、その時に集めた「貴重な在来コムギの遺伝資源を半世紀ぶりに里帰りさせる」国家プロジェクトを実現しました。アフガンからの留学生とともに厳しい環境でも育つ新しいコムギ品種を開発しています。



変動する環境の緩和と変動する環境への適応に向けた教育研究

木原 均博士の精神を引き継ぎ、未来の地球と持続可能な暮らし実現するため、食料・環境・健康をつなぐ研究開発とSDGs達成に貢献する、世界で活躍する人材の育成を展開しています。

2028年に創立100周年を迎える横浜市立大学は、横浜から世界に羽ばたく人材の育成と知の創生・発信に取り組み、横浜とともに歩む総合大学として「さらなる発展」を目指します。

生命科学を地球の医師に

生命科学の一定義は、「生命科学は生命に関するすべての分野を総動員して人類生存の活路を見出そうとする総合学術である」としています。生命科学の役割はたくさんありますが、とりわけ人口の爆発的増加、資源の枯渇、環境汚染等の対策には、全人類規模で当たらなければなりません。地球は人間だけのものではなく、全ての生物がここで生を営んでいるのです。他の生物なしでは人間は生きることができません。このままよりゆきまかせで行くならば、いつかは自滅することでしょう。医師が人間の病気を予防したり治療するように、生命科学は地球の医師となって働いてほしいものです。（木原均、1976年9月14日北海道大学創基百周年記念講演より）

